

科学研究費

「乳幼児における口腔領域の外傷予防を目的とした地域疫学研究」

(課題番号 19590635)

佐世保市内の幼稚園・保育所を対象とした  
「お口の外傷に関するアンケート」  
報告書

平成 22 年 4 月

研究代表者：福田 英輝  
(長崎大学病院 予防歯科室)

研究協力：佐世保市幼児教育センター

## 【はじめに】

平成19年から同20年にかけて、佐世保市歯科医師会が経営する131の歯科診療所、および2つの病院歯科にて、口腔外傷発生動向調査を実施した。調査結果から、口腔外傷の受傷場所として「自宅（屋内）」と「保育所・幼稚園」との回答が多かったため、平成22年度は、佐世保市幼児教育センターと共同して、市内保育所・幼稚園に勤務する保育士・教諭を対象とした外傷予防に関する研修会を行った。研修会は、佐世保市医師会、同市歯科医師会、産業技術総合研究所、および日本公園施設業協会の協力を得て計4回実施し、のべ367名の参加を得た。口腔外傷に関する研修会の際にアンケート調査を実施したところ、参加者の75%が「口腔外傷について関心がある」と回答しており、78%が「業務に反映できる」と回答していた。園内では、口腔外傷が少なからず発生しているにも関わらず、その対応法については、研修会等で学ぶ機会が少なく、現場での不安は大きかったものと考えられた。口腔領域の事故予防とその対応に関する研修会の定期的な開催が必要であると考えられた。そのため、長崎大学病院予防歯科室では、佐世保市内の保育所・幼稚園を対象とした過去1年間に発生した（口腔）外傷を伴う事故についての実態調査を実施した。

## 【対象と方法】

佐世保市内の全118の保育所・幼稚園を対象に、アンケート用紙を利用した調査を実施した。佐世保市内の全保育所・幼稚園のリストは、佐世保市子ども未来部幼児教育センターから提供をいただいた。

アンケート用紙は、各園を対象とした（口腔）外傷の発生状況に関する調査、および口腔外傷の受傷児を対象とした発生状況に関する調査の2つから構成された。

### 1) 各園を対象とした（口腔）外傷の発生状況に関する調査

平成21年1月から12月までの1年間の保育時間中（通園時間も含む）にケガをして、医療機関を受診した者の数について調査した。また、各園における口腔外傷に関するマニュアルや応急処置セットの有無についても調査した。

### 2) 口腔外傷の受傷児を対象とした発生状況に関する調査

平成21年1月から12月までの1年間の保育時間中（通園時間も含む）に口に関連したケガ（医療機関を受診していないケースも含む）について、ケガの発生状況（時間、理由、内容、処置など）に関して調査した。受傷児の属性については、性・年齢を除いて、個人を特定できる一切の情報は収集しなかった。

アンケート用紙は、平成 22 年 1 月に各園に対して郵送し、同年 2 月 12 日を締め切りとして郵送にて回収を行った。その結果、80 施設から回答を得た（回答率 68%）。

調査票の回収、保管、および分析は、長崎大学病院予防歯科室が行った。分析に際しては、各園を特定できる情報は一切削除したデータを利用して分析を行った。

## 【結果】

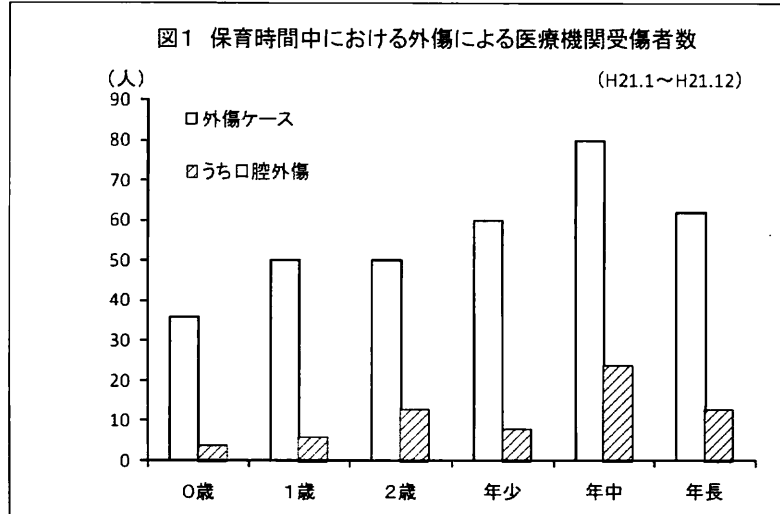
### 1. 各園を対象とした（口腔）外傷の発生状況に関する調査

#### 1) 保育時間中における外傷による医療機関受傷者数

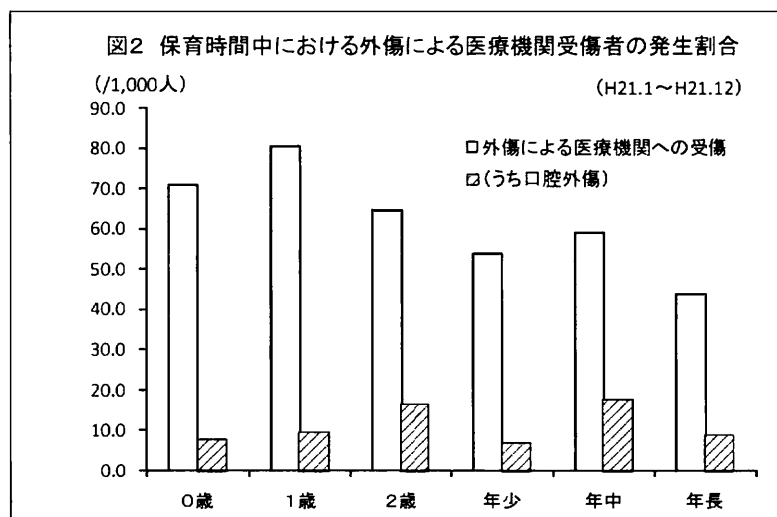
回答があった80施設において、外傷が原因で医療機関を受傷した児童は338名であった。

年齢区分別の内訳は、

0歳児 36人、1歳児 50人、2歳児 50人、年少クラス 60人、年中クラス 80人、年長クラス 62人であった。うち、口に関連した外傷は、0歳児 4人、1歳児 6人、2歳児 13人、年少クラス 8人、年中クラス 24人、年長クラス 13人、合計 68人であった。

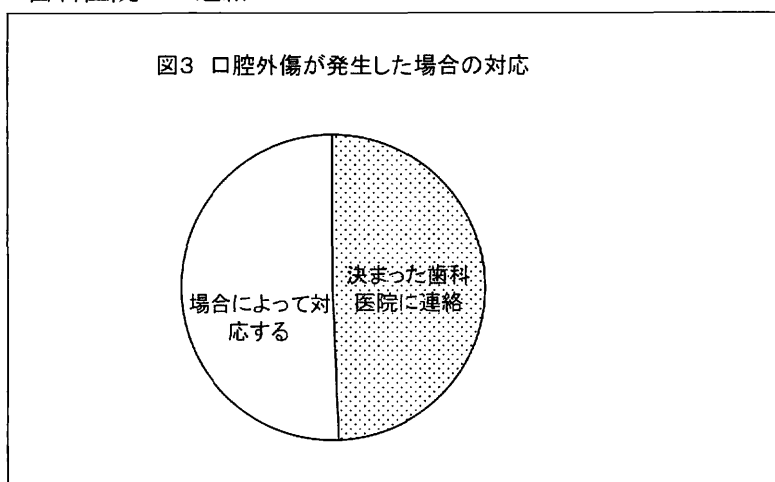


保育所・幼稚園における年齢区分別の児童数が異なるため、児童数で除した数値で比較したところ、1,000園児あたりの医療機関受傷児の割合は、合計では58.4であった。うち、口腔外傷による受傷児の割合は11.7であった。年齢区分別にみた1,000園児あたりの医療機関受傷児の割合は、0歳児70.9人、1歳児80.5、2歳児64.5、年少クラス53.9、年中クラス59.1、年長クラス43.8であった。うち、口に関連した外傷は、0歳児7.9、1歳児9.7、2歳児16.8、年少クラス7.2、年中クラス17.7、年長クラス9.2であった。



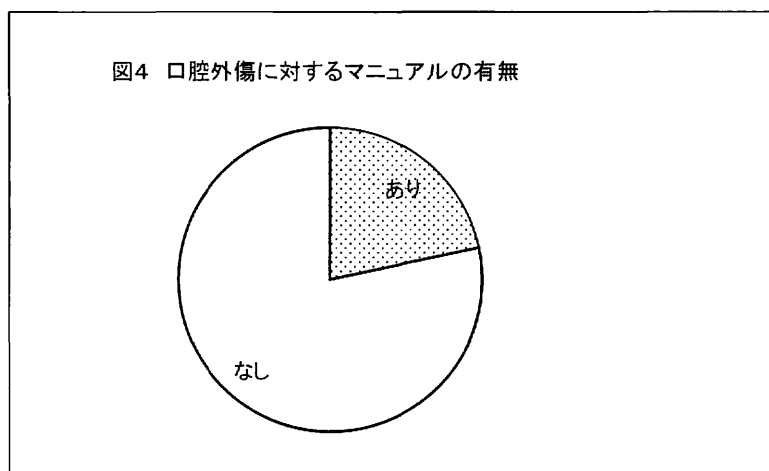
## 2) 口腔外傷を受傷した際の歯科医院への連絡

園児が口腔外傷を受傷した際の歯科医院への連絡については、「決まった歯科医院に連絡するようになっている」とした園の割合は49%であった。「場合によって対応し、とくに決まっていない」とした園の割合は、ほぼ同程度の50%であった。



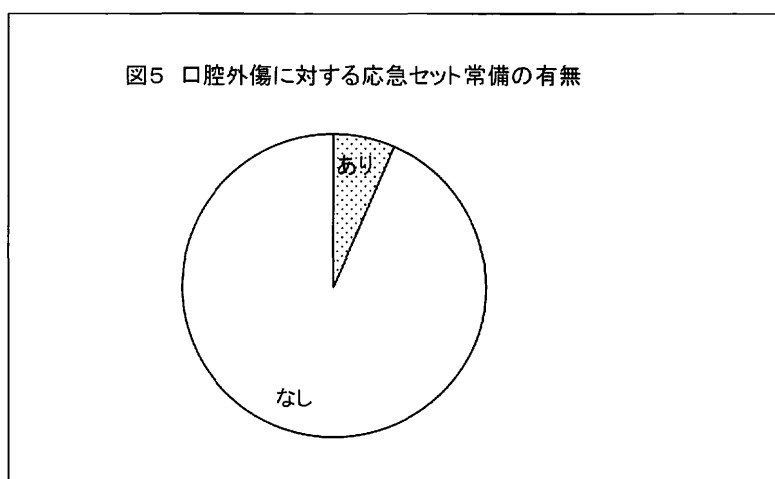
## 3) 口のケガに対する応急処置マニュアル

園児が口のケガをした場合の応急処置マニュアルがあるとした園の割合は、21%であった。一方、マニュアルがないとした園の割合は、78%であった。



## 4) 口のケガに対する応急処置セット

園児が口のケガをした場合の応急処置セットを常備しているとした園の割合は、わずかに6%であった。一方、常備していないとした園の割合は、91%であった。



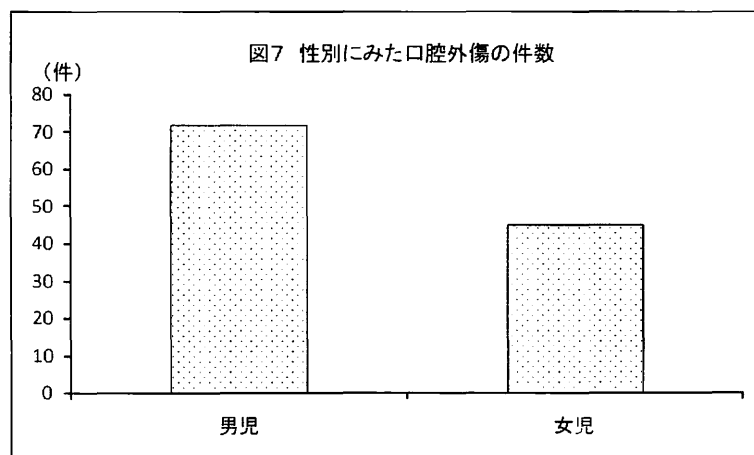
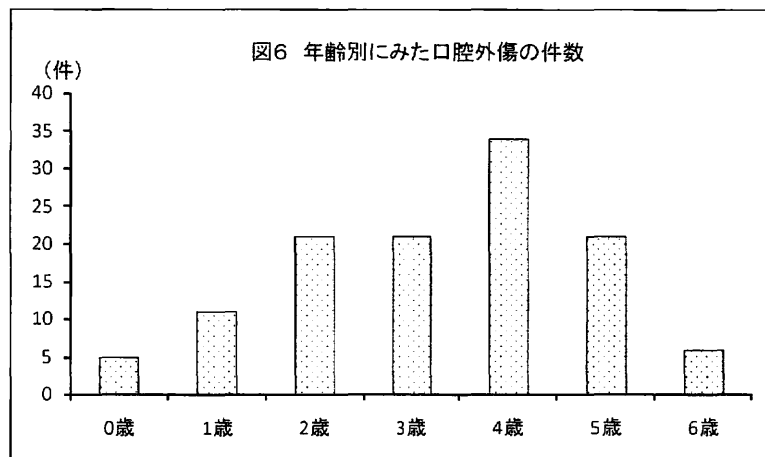
## 2. 口腔外傷の受傷児を対象とした発生状況に関する調査

### 1) 性・年齢別にみた口腔外傷の発生状況

医療機関への受診の有無を問わず、平成21年1月から同年12月までの1年間において、口と関連した外傷を受傷した児童は、総数で119人であった。

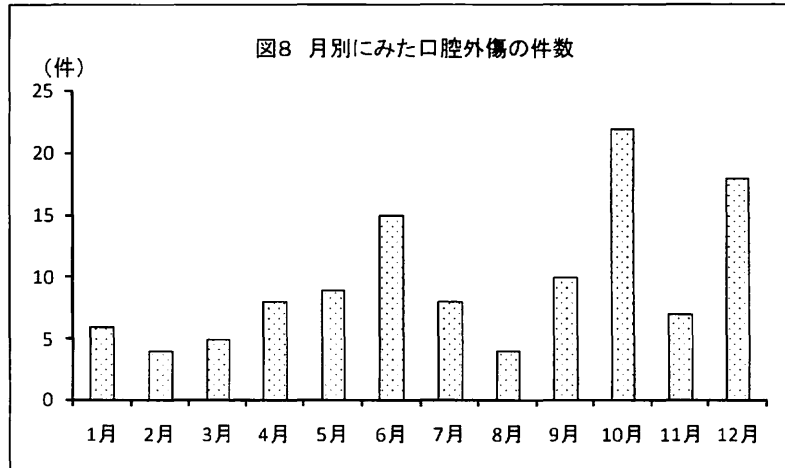
年齢別にみた口腔外傷を受傷した児童数は、4歳児が最も大きく34人、ついで2歳児、3歳児、5歳児がそれぞれ21人であった。

性別にみた口腔外傷を受傷した児童数は、女児45人と比較して、男児が72人と大きかった。



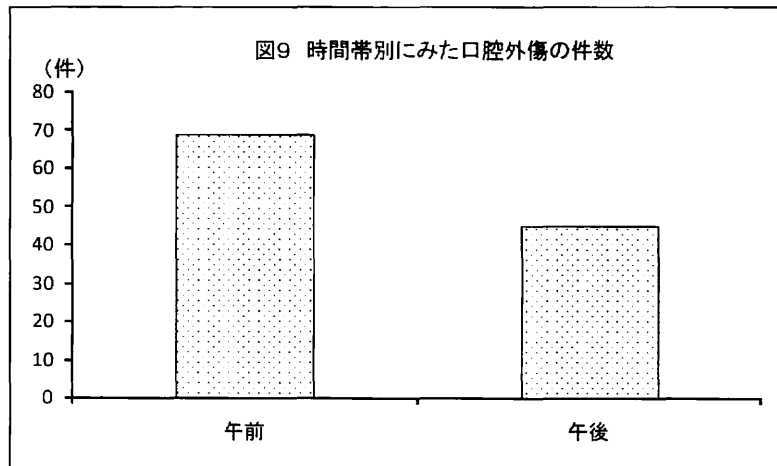
## 2) 口腔外傷が発生した月

口腔外傷が発生した月については、10月が最も多く22人、ついで12月が18人、6月が15人であった。



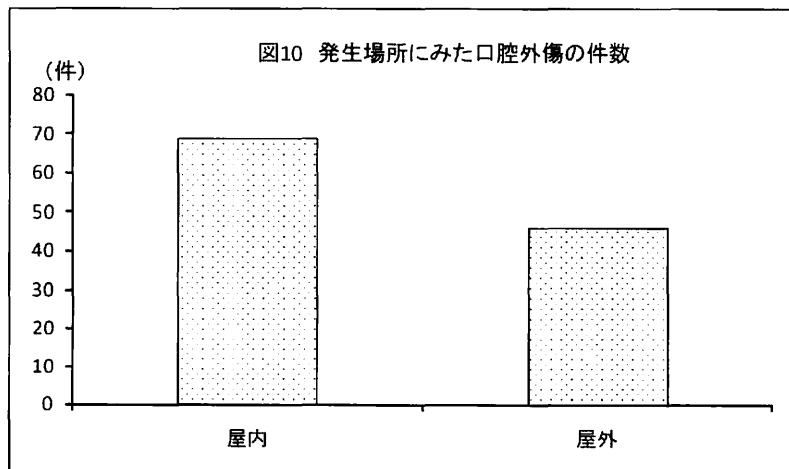
## 3) 口腔外傷が発生した時間帯

口腔外傷が発生した時間帯については、「午後」に受傷したとした者45人と比較して、「午前」に受傷した者69人と多かった。



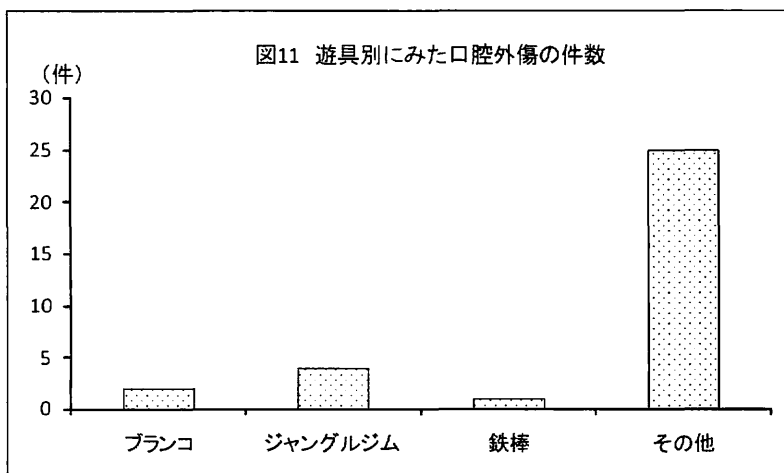
## 4) 口腔外傷が発生した場所

口腔外傷が発生した場所については、「屋外」にて受傷したとした者46人と比較して、「屋内」にて受傷した者69人と多かった。



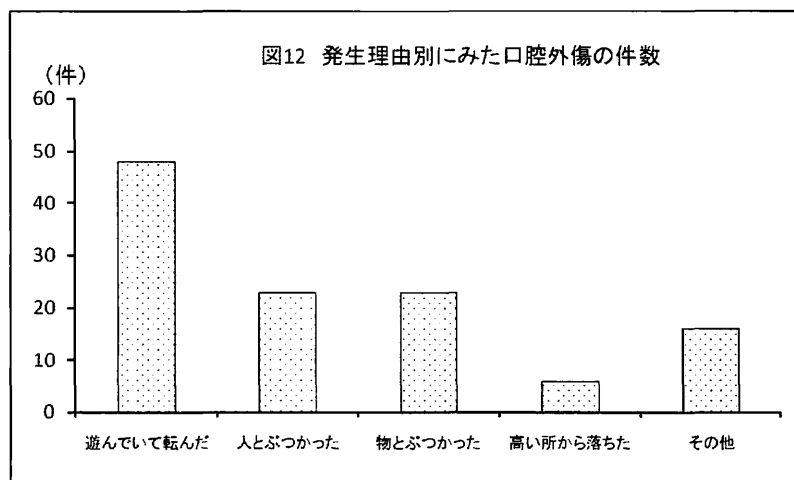
5) 口腔外傷が発生した遊具

口腔外傷が「屋外」で発生したとした46人のうち、口腔外傷が発生した遊具については、「ジャングルジム」とした者が最も多く4人であった。ついで、「ブランコ」2人、「鉄棒」1人であった。



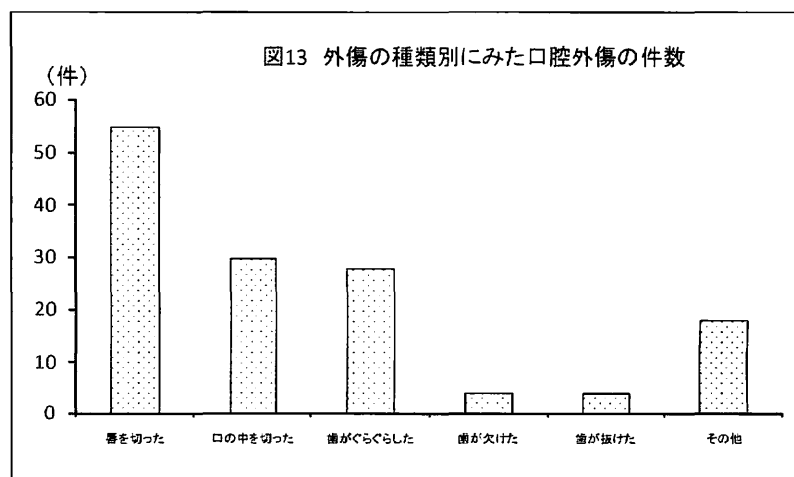
6) 口腔外傷の受傷理由

口腔外傷受傷の理由としては、「遊んでいて転んだ」とした児童が最も多く48人であった。ついで、「人とぶつかった」、「物とぶつかった」がそれぞれ23人であった。



7) 口腔外傷の内容（複数回答）

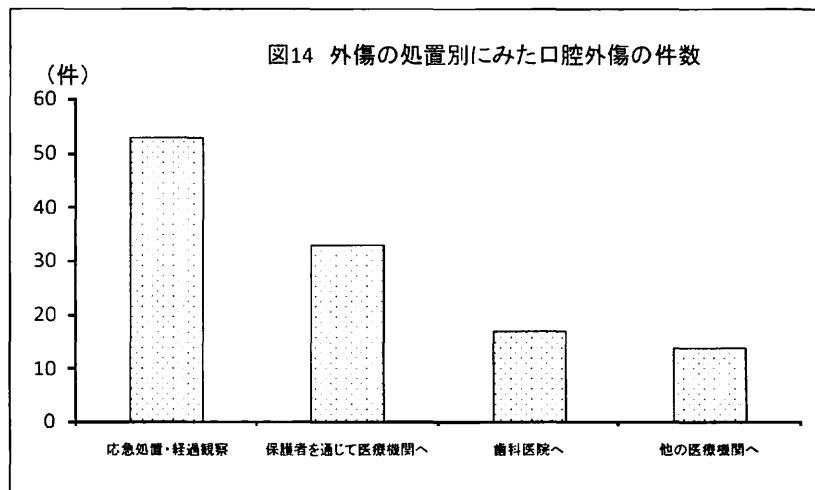
口腔外傷の内容については、「唇を切った」とした者が最も多く55人であった。ついで、「口の中を切った」30人、「歯がずれた、歯がぐらぐらした」28人であった。





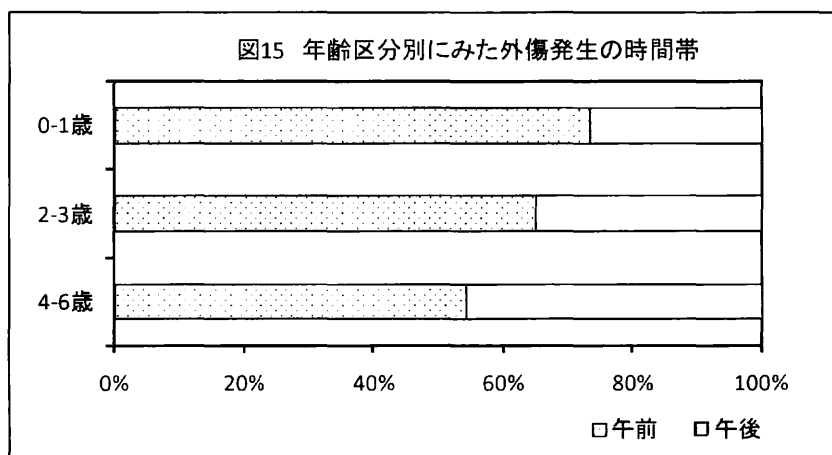
8) 口腔外傷に対する処置

口腔外傷を受傷した際の処置については、「園で応急処置をして経過観察をした」とした者が最も多く 53 人、ついで、「保護者に連絡し、園児のかかりつけの病院・歯科医院へ行った」33 人、「歯科医院へ連れて行った」17 人であった。



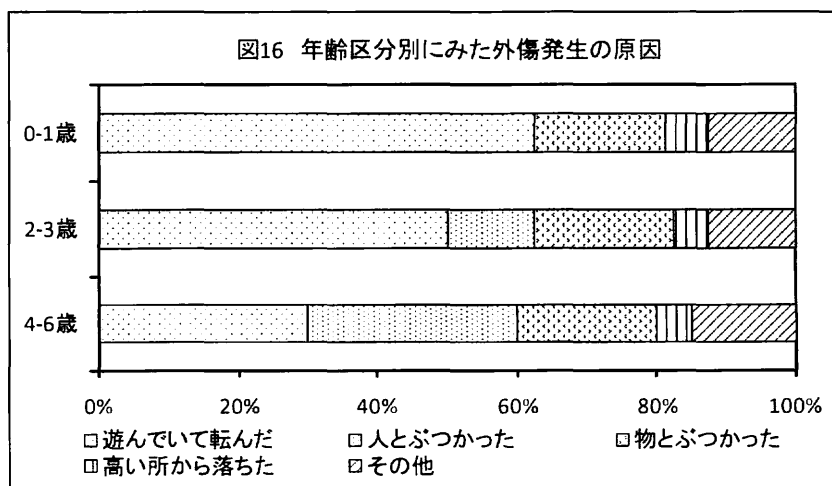
9) 年齢区分別にみた口腔外傷の発生時間

年齢区分が0-1歳では「午前」に受傷したとした割合が 73%であったが、年齢区分がすすむにつれて小さくなり、4-6歳では 54%であった。



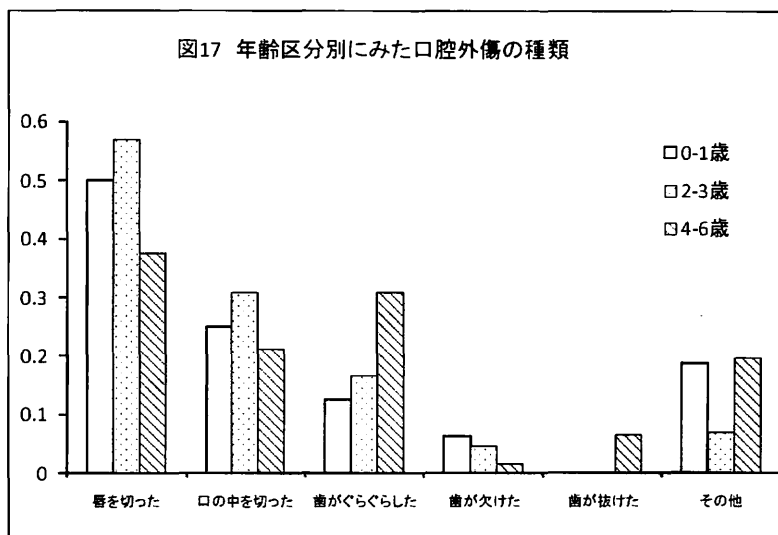
10) 年齢区分別にみた口腔外傷の受傷理由

年齢区分がすすむにつれて「遊んでいて転んだ」とした児童の割合は減少した。一方、「人とぶつかった」とした児童の割合は増加した。



## 11) 年齢区分別にみた口腔外傷の種類

「歯がずれた・歯がぐらぐらした」として児童の割合は、0-1歳では13%であったが、年齢区分がすすむにつれて大きくなり4-6歳では31%であった。一方、「歯がかけた」とした児童の割合は、年齢区分がすすむにつれて小さかった。



## 12) 発生時の状況（自由回答）

発生時の状況について、簡単に記述してもらったところ、以下のような回答があった。受傷理由別に回答をまとめた。

### a) 遊んでいて転んだ

- 昼食後の自由遊びの際、園庭を駆け回り滑って転んだ。その際、顔から転びすったような形となり、前歯が少しぐらぐらしている様子だったので、通院し診てもらった。1回の対応処置ですんだ。
- 平坦な床で転倒し、口元を打った。
- 鬼ごっこをしていて石につまづき転ぶ。手はついたが、支えきれず顔（口）もうち、唇を切る。
- 室内遊び中、転んだ際に子ども自身のひざが顎に当たり、ぐらぐらしていた歯（乳歯）が抜け、その隣の歯もぐらぐらがひどくなった。
- 滑り台を滑り終わって立ち上がった1歩目で転んだ。
- 部屋で遊んでいるときに（子供同士で）転んで床で唇を切った。
- 友達と遊んでいてタッチされたとき、足がぐらついてこけ、そのまま下のすのこで歯（口）を打った。
- 遊んでいる最中に転び、転んだ先にブロックがあり、手を付かずに顔からいき、角で口を打ち歯ぐきから出血していた。
- 大型積み木で遊んでいる途中、踏みはずして転倒し、歯で口の中を切った。すぐにティッシュ等で止血し経過を見てお迎えに来た保護者に報告した。すぐに血は止まったが、かかりつけ医に行かれた。

- おもちゃにつまづき転び、床で顔を打った。
- 室内遊びをしていた際、つかまり立ちをしようとして、手をつきそこない玩具で口を打つ。打った際に歯が口唇に当たり切る。
- つかまり立ちしていた際、バランス崩し床で上口唇接触する。
- 近くにいた子が、くしゃみをしたのを真似して舌を切ってしまった。
- 廊下より部屋の中へ入るとき、戸の段差につまづき転んだ。
- 午睡前に、順番に並ぶよう伝えたが、足早に走りこけた際に舌を切った。
- 椅子につかまって立とうとしたとき、滑って床で口を打ってしまった。唇と歯ぐきのつながり部分を切ってしまう。
- 室内でブロック遊びをしていてうしろから押されて転倒。顔面打撲し上口唇切傷（0.2程度）出血（+）すぐに止血するため含嗽後、様子観察、後日アフター状になっているが疼痛ない。
- 室内遊び中、ブロックを押し遊んでいたところ、ころんで顔面を打つ。上唇赤くはれ、前歯 2 本の歯肉より出血あるがすぐに止血。口の中（上唇と歯肉の境）2~3mmの傷あり、念のため園医（歯科医）受診する。
- 園庭遊びから帰る途中、走って正門前のコンクリートのところで転倒し口唇部より出血少量。少し腫れ、上唇の裏（口腔）擦過傷あるが、流水で洗い流し、クーリングにて様子見る。
- 室内遊びカート（車の乗り物）に乗って遊んでいたところ、車から落ちた。歯肉（前歯 1ヶ所）より出血あるがすぐに止血した。グラつき等ないが念のため園医（歯科）受診する。
- 園庭で皆と遊んでいるとき、こけて顔をすりむき前口唇を切った。止血して様子を観察した。その後、血も止まり腫れもなくおさまった。
- 園庭にてブランコに乗って遊んでいて降りたときに、ブランコが口にあたり唇を切ってしまった。
- 園庭の階段で転んで口の中を切ったため、外科を受診し2針縫合される。
- テラスにて遊んでいて転び下唇を切ってしまった。
- 園庭で遊んでいるときにこけて前歯がかけた様子。
- 公園で遊んでいてブランコにあたり転倒し切った。
- 公園で遊び中、転倒し切った。
- 公園で遊んでいて転倒し切った。
- 昼寝時、布団カバー（かと思われる）にひっかかり、転倒し切る。受診し上唇小帯を2針縫合の処置を受ける。
- おもちゃの車に乗って移動時、他のおもちゃに乗り上げ、バランス崩し顔面より転倒し打撲して切る。
- 転倒し打撲し唇と口の中を切った。

- 園ベランダでプール遊び中、転倒し打撲した。
- 公園で遊んでいて転倒して切った。
- スクーターで遊んでいて転び、スクーターのハンドルで唇、口の中を切った。
- 鬼ごっこをしていてあわてて逃げ、転び、勢いもあり手をつかず上唇を打ってしまった。
- 運動場を自由に走り回っていて、転んだときに手をつかず前歯を打った。
- 走り回っていて足がもつれて転んだ際、顔面から打ち、唇を切りました。
- 部屋で転倒、口の中を切る。軽度のため消毒後、冷やし様子を観察。
- 室内遊びの際、両手におもちゃを持っていたため、何もないところで転んだが、手をつきそびれて唇を切った。
- 運動会中遊んでいて転倒。軽度のため消毒後、冷やし様子観察。
- 給食後、箸を下歯と歯肉の間にあてて、椅子をガタガタさせふざけていた。バランスを崩し、椅子に座ったまま倒れる。その際出血し歯がぐらぐらした。
- 転倒して口唇部打撲あったも歯肉部分が暗紫色呈していたので、一応念のため歯科受診し、レントゲンし異常なし、保存的治療する。その後訴え変わりなし。
- 歩行が安定しておらず、自分で転び、手をつかずに顔を打ってしまう。自分の歯で唇をかんでしまったようだった。
- 保育室にて自由遊びの時間、同年齢の子と走っていて転倒、口の中より少量の血が出たもののすぐに回復。
- 保育室で走っていて転び、抜けそうでグラグラしていた前歯が抜けた。
- 室内で他の園児と遊んでいるときに転倒。併設している小児科医に診てもらい保護者に連絡。
- 走っていて足がもつれてしまい転んだ。手をついたが、唇を少しぶつけた。たいした事なく終わりました。
- 午睡前に、友達と遊んでいて、友達の足につまづき転んだときに、椅子に口が当たり歯で唇を噛んで切る。
- 午睡後、部屋から食堂へ移動するとき、つまづき転び、下唇を切る。
- 階段付近の砂落としマットで足を滑らせ転倒する。

#### b) 人にぶつかった

- 廊下で走っていた際、友達の頭と本児の頬がぶつかり歯で口の中を切った。
- 遊具で遊んでいて、うしろを振り向いたときに友達の頭とぶつかり前歯を打撲する。ぐらついているように感じたので通院した。ワイヤーをかけて固定した。
- テラス廊下にて、お友達とぶつかり転倒した後、床（地面）に口をぶつけ、左前歯・歯茎から出血がみられた。
- 戦いごっこをしていた友達とぶつかり倒れて机にぶつかり、上唇を切る。

- ホールから屋外に走って出ようとしてぶつかり、相手の頭部と接触した。
- 自由活動の際、ホールで走っていて他の遊びをしていた子供の頭とぶつかった。
- 廊下で待っている間、お友達と走っていてぶつかり、右側上の歯茎から出血。上の右側の前歯が欠けていた。
- プレイルーム（体育館）から玄関へ荷物を持って移動中、園児が転倒しているところに覆いかぶさるように倒れ、口を床で打って下唇が少し切れた。その後、翌日に歯のぐらつきが見られたため病院を受診された。
- 集団遊び（だるまさんがころんだ）をしているときに鬼から逃げようとして振り向いた瞬間に他のお友達とぶつかった。
- 運動会の練習中、隣の友達の頭と顔がぶつかり固定している前歯の歯茎より出血。
- 3, 4, 5 歳児合同でブロック等で自由遊び中、男児とぶつかった。
- 園庭を走っていて、他児とぶつかり地面に口の辺りをぶつけ出血した。転んだ際に手を先につけず顔からぶつかったようである。
- 体育館で転がったボールを拾おうとし、年少児の頭と口元がぶつかり、歯がぐらぐらした。
- 廊下で他の園児とぶつかり相手の子供の頭が口に当たり、自分の歯で舌を噛み切り出血。外科を受診し縫合が必要とのことで処置をしてもらう。
- 室内で友達とぶつかり口の中を切った。
- トイレに行こうと走って部屋を出たところで、排泄を終えた男の子が走って戻り、男の子の頭と本児の口がぶつかってしまった。
- 移動中、前方を見ず人とぶつかった際、顔面を打ち唇が切れました。
- 園庭で遊んでいて前を見ないで走っていて他園児とぶつかった。
- 園庭で遊んでいて前を見ないで走っていて他園児とぶつかった事とで、上前歯右乳中切歯、乳側切歯を打撲し痛みだけ訴えあり。歯科受診し、レントゲンでは異常なく保存的治療し、その後訴えなし。
- 他児とぶつかり歯で唇を少し切り出血する。
- 他児とぶつかり下唇を切り出血する。すぐに出血は止まったが、少し下唇が腫れる。
- 戸外あそび時、走っていて他児とぶつかった拍子に自分で口の中をかんでしまった。

### c) 物にぶつかった

- あそびに夢中になっていて遊具を手にしたまま移動を試みてドアに打撲する。
- 鉄棒をしていて歯を鉄棒に強く打つ。
- 部屋に机を並べていたときに、机と机の間を机に手をついて通っていると転んで唇・歯を打つ。
- 室内滑り台で遊んでいた際、バランスを崩して転倒し手すり歯を打った。
- 室内滑り台で遊んでいた際、バランスを崩して手すり歯を打った。

- 廊下でドアの隅から顔を出したり、隠したりして遊んでいて、勢いよく隠れようとしてドアのへりに歯が当たった。
- お友達と遊んでおり、追いかけられたのであわてて滑り台の階段を上り、滑って歯を手すりですり打ってしまいました。
- 給食の片づけ中、弁当箱を持っていこうと両手で持って歩こうとしたところ、足の安定を失いその場にあった椅子の背で下あご、前歯を打った。
- 遊具に登ろうとしたとき、友達とぶつかり遊具で前歯を打ち上前歯 2 本の歯肉より出血あり、患部冷やし出血はすぐ止まるが念のため歯科受診する。
- 教室の机にぶつかり、口腔内（歯茎の付け根）0.5 cmほど切れて出血あり、圧迫止血後、念のため園医（外科）受診する。
- 16 時過ぎ、園庭のジャングルジムから落ちて口を打ち、下唇を切っけてしまい外科を受診し次の日、再度受診後、消毒のためうがい薬をもらいうがいをを行う。
- クラス内で椅子につまづき、その椅子の背もたれに顎をぶつけ、顎に 1cm 弱の切傷、右下乳側切歯のぐらつきがみられた。
- 園庭で飛行機ジムの鉄でできたプロペラに歯をぶつけ、上右中切歯（乳歯）が欠けた。
- 外遊びへ出ようと、ベランダへ向かい歩いてサッシの窓枠に上唇をぶつけ、上歯肉に傷、腫脹がみられた。
- 三輪車に乗っていた際、スピードを出しすぎて前方にあった遊具をさけきれず転倒。三輪車の取っ手部分で口（前歯）を打撲、前歯が生え変わり途中であったのが、出血。歯科医院で診察してもらった。
- お部屋を走っていて机にぶつかり、上の歯茎から出血。
- おもちゃが口にあたり少量出血。
- 教室の移動時、他児に後ろから押されドアで顔を打つ。唇を噛み出血。
- ボールを追いかけていて、手洗い場にぶつかり、口の中 2ヶ所を噛み、出血する。
- 水筒のストローが当たり、上唇より少量出血する。
- すべり台にぶつかり下唇を少し切り出血する。
- 降園時にあわてて、壁にぶつかった。少しの出血であった。

#### d) 高い所から落ちた

- 滑り台から落ちたときに、自分で口唇をかんでしまう。
- 鬼ごっこをしていたらしく、途中のぼり棒に登り、手を離して落下した。
- 17:30 外庭で遊んでいて滑り台より転倒し顔面打撲する。上唇切傷（0.5 cm程度）あり、出血少量（+）腫脹しているため氷器法施行にて様子観察する。後日、口唇の切傷白くなっているが、疼痛なく、ほとんどわからないようになっている。
- 棚の上のものをとろうとして棚に登っていたら、手を滑らせて落ちた。唇を深く切っけていて出血がなかなか止まらず、外科に連れて行った。

- 固定遊具から顔面を打った様子。(足を滑らせて)唇が切れていたのので(少々深かった)園のかかりつけ医療機関(外科)へ連れて行った。
- 土曜日の午前中、戸外で遊んでいてジャングルジムに登り落ち口を打つ。その時、外傷はなく月曜日に歯がぶらつくと言科医院を受診。歯の根元が折れていると診断され、取ってもらった。

#### e) その他

- 1階教室から2階の放課後教室へ行くとき、階段でつまづき、転倒したときに前歯を打ち出血した。
- 昼食時に家庭から持参したお弁当を食べていたら、歯が抜けた。差し歯だったため、流血等なく痛みもなかったようだ。
- 体操時に平均台の上にマットがあり、手をついたところに平均台がなく、顔面から落ちた。
- 廊下で歯磨き中、廊下に水がこぼれており、その上を歩き滑って転倒し、前歯を打つ。
- タイヤ跳びをしていた際、とんだ弾みでつまづき、そのまま転倒。転倒先にジャングルジムの下段があり怪我を負った。
- 友達とけんかになり、押された拍子に転び床で口を打った。
- ジャンプして遊んでいて、着地するとき歯を食いしばったようで口の中を噛んで、少し血が出る怪我をした。
- 遊具の階段を下りるとき、一段目のところで踏みはずして下に落ち、階段の下にある固定された椅子の背もたれ部に下唇を打ち切る。3針縫合する。
- 午前のおやつを食べた後、椅子に立ちその際バランス崩し、転倒し床に接触。
- 平均台を渡っていて最後のところで足を滑らせ転倒し地面で打つ。
- 滑り台の階段を登っていたとき、足が滑り顎を打った。口内を強く噛み、歯が2mmくらい欠けた。
- 友達と遊んでいて、ふざけてその子の手と足を二人で持って揺らして面白がっていたが、途中で片方が手を離したため落ちて、床か手か体の一部が口に当たり、もともとぐらぐらしていた乳歯がますますぐらぐらになってしまった。(前歯)
- 園庭を走っていたときに、転倒し口唇内を切った。
- 友達がおもちゃを振り回してあたり口の中を切った。
- 体操服から私服に更衣の際、絞り袋を口にくわえその紐をお友達が引っ張り、下右中切歯(乳歯)がグラついた。
- 給食時に誤って舌をかんでしまった。
- 外遊び後部屋へ戻るとき、階段を踏みはずし頭を階段の角で打った。サイズが大きすぎる短い雨靴を履いていた。

## 【考察】

### 1) 口腔外傷に対する園の対応

園児が口腔外傷を受傷した際に、「決まった歯科医院に連絡する」とした園は、約半数であった。その他のケースについては、保護者に連絡後、園児のかかりつけ歯科医院へ行くケースが多いのではと考えられた。

回答があった保育所・幼稚園では、外傷による受療が1年間に338件報告されていた。そのうち口腔と関連した外傷の受療は68件であり、全体の受療ケースの20.1%であった。約1/5の外傷が口腔と関連した事例であるにも関わらず、応急処置マニュアルを有している園は21%、応急処置セットを常備している園はわずか6%であった。口腔外傷に対する応急処置に関する継続的・積極的な支援が喫緊の課題であることが示された。

### 2) 対象者の属性

口腔外傷を受傷した児童は、女児と比較して、男児が多かった。平成20年度に佐世保市歯科医師会の協力を得て実施した「口腔領域における外傷発生動向調査」と同様の結果であった。年齢別にみた口腔外傷の事例は、4歳児が最も多く、ついで2歳児、3歳児、5歳児であった。2歳児から5歳児までで、全体の82%を占めていた。

### 3) 口腔外傷の受傷状況

口腔外傷の受傷理由は、「遊んでいてころんだ」が最も多かった。自由回答欄では、「戸の段差につまづいた」「マットで滑らせ転倒した」などの意見がきかれた。園舎のデザインや配置している物を日頃からチェックし、転倒しそうな部分の改善を行うことで、「転倒」を予防することが重要であると考えられた。ついで、受療理由としては「ぶつかった」といった回答が多かった。自由回答欄では、「屋外に走って出ようとしてぶつかった」「トイレに行こうと走って部屋を出たところでぶつかった」などの意見がきかれた。出会い頭の衝突を予防するための工夫や安全教育を充実させることで、「衝突」予防をすすめることが大切であると思われた。

口腔外傷の内容としては、「唇を切った」が最も多く、ついで「口の中を切った」「歯がぐらぐらした」であった。園での口腔外傷に対する支援は、歯の外傷のみならず、口唇や口腔粘膜の外傷にも着目した応急処置法の指導や応急処置マニュアルの作成などが必要であることが示された。

口腔外傷に対する処置は、「園で応急処置をして経過観察をした」という回答が44.5%であった。約半数の事故は、比較的、軽症であり園内で処置されていることが明かとなった。軽症な口腔外傷のケースに対する応急処置マニュアルを開発・配布し、正しい処置を実践するための講習会を開催するなど、継続的な支援体制の構築が必要であると考えられた。



#### 4) 年齢区別にみた受傷状況の違い

年齢区分がすすむにつれて、外傷発生時が「午前中」としたケースの割合は小さくなっていった。0～2歳といった幼児は、保育所に預けられていることが多く、幼稚園と比較して午前保育の時間が長いことが影響しているのかもしれない。

小児歯科学会は、2歳までは転倒が多く、3歳からは衝突が多いことを報告している（小児の歯の外傷の実態調査、日本小児歯科学会、小児歯科学雑誌 34(1):1-20, 1996）。本調査においても、年齢区分がすすむにつれて「遊んでいて転んだ」としたケースの割合小さくなる一方、「人とぶつかった」としたケースの割合は大きかった。年齢区分がすすむと、活動強度や活動範囲が増すため、人や物とぶつかってケガをするケースが多くなるものと考えられた。

#### 5) 事故発生の詳細

「事故発生時の状況」について、自由記載にて簡単に記述するよう依頼したところ、すべてのケースについて事故発生時の簡単な状況説明を入手できた。事故発生時の個別な状況をデータベース化し、質的な分析をすすめることで、より実態に即した事故予防対策が構築できると考えられた。

### 【まとめ】

佐世保市内の全 118 保育所・幼稚園を対象として、保育時間中に発生した（口腔）外傷に関する調査を実施し、80 施設から回答を得た（回答率 68%）。その結果、市内保育所・幼稚園では、1 年間で 1,000 園児あたり 58 の通院を要する外傷が報告されており、うち 12 が口腔と関連した外傷であった。口腔と関連した外傷（経過観察も含む）の受傷理由は、「遊んでいて転んだ」が最も多く 48 例（40%）であった。また、外傷の種類は、「唇を切った」が最も多く 64 例（46%）、ついで「口の中を切った」30 例（25%）、「歯がぐらぐらした」28 例（24%）であった。

資料1 お口の外傷に関するアンケートについて記入要領

資料2 ケガに関するアンケート調査（園用）

資料3 お口のケガに関する個別報告

## 資料 1

# お口の外傷に関するアンケートについて記入要領

当調査の依頼は、昨年行われました事故予防についての講演会（4回シリーズ）に参加された園をふくむ、佐世保市内のすべての幼稚園・保育所に対して行っております。なお、保育所・幼稚園のリストは、佐世保市幼児教育センターからいただきました。

調査票の回収、保管、および分析は、長崎大学歯学部予防歯科教室にて責任をもって行います。分析結果の報告につきましては、各園を特定できる情報は一切取り扱わないように配慮し、佐世保市全体の結果として報告させていただきます。

当調査は、

- 1) 「ケガに関するアンケート調査（園用）、および
  - 2) 過去1年間における「お口のケガに関する個別報告」
- からなっています。

※注意

- 1) については、医療機関を受診した場合のみ、人数をお書きください。
- 2) については、医療機関の受診の有無にかかわらず、お口の事故があった場合にお書きください。なお、お口のケガに関する個別報告は、5件まで報告できるよう用紙を添付しておりますが、お口のケガが6件以上あった場合には、原紙をコピーして回答してください。

ご記入頂いた調査票は、同封の封筒にて長崎大学歯学部予防歯科教室まで回答いただきますようお願いいたします。なお、回答の締め切りは、平成22年2月12日（金曜日）とさせていただきます。

不明な点などございましたら、佐世保市幼児教育センター（担当：浪花清子）、あるいは長崎大学歯学部予防歯科教室（担当：福田）までお問い合わせください。

担当：福田英輝（講師）

長崎大学歯学部予防歯科教室

〒851-2125 長崎市坂本 1-7-1

TEL 095-819-7663 FAX 095-819-7665

資料 2

ケガに関するアンケート調査（園用）

園名	
----	--

年齢別の園児（入所）数を教えてください

（日によって偏りがある場合は、平均した人数で結構です）

0歳児	人
1歳児	人
2歳児	人
年少	人
年中	人
年長	人

貴園で保育時間中（スクールバスによる通園時間を含む）にケガをして、医療機関を受診した園児の数をお書きください。（平成 21 年 1 月～同年 12 月までの 1 年間）

	総数	総数のうち、口と関連したケガ
0歳児	人	( 人)
1歳児	人	( 人)
2歳児	人	( 人)
年少	人	( 人)
年中	人	( 人)
年長	人	( 人)

園児が口のケガをした場合、歯科医院への連絡はどのようにされていますか？

1. 決まった歯科医院に連絡するようにしている
2. 場合によって対応し、とくに決まっていない

園児が口のケガをした場合、応急処置についてのマニュアルはお持ちですか？

1. はい
2. いいえ

口のケガに備えて、応急処置セット（歯の保存液など）を常備されていますか？

1. はい
2. いいえ

資料3

お口のケガに関する個別報告

年齢：\_\_\_\_\_ 歳 (男児 ・ 女児)

ケガをした日時： 平成 21 年 \_\_\_\_\_ 月 (午前 ・ 午後)

ケガをした場所はどこですか？

1. 屋内
2. 屋外→ ブランコ・ジャングルジム・鉄棒・その他 ( )

ケガをした理由は何ですか？

1. 遊んでいて転んだ
2. 人とぶつかった
3. 物とぶつかった
4. 高い所から落ちた
5. その他 ( )
6. 不明

ケガの内容は何ですか？ -複数回答可-

1. 唇を切った
2. 口の中を切った
3. 歯がずれた・歯がぐらぐらした
4. 歯が欠けた
5. 歯が抜けた
6. その他 ( )

ケガに対する処置について教えてください

1. 園で応急処置をして経過観察をした
2. 保護者に連絡し、園児のかかり付けの病院・歯科医院へ行った
3. 歯科医院へ連れて行った
4. 歯科以外の医療機関に連れて行った→ 外科・形成外科・小児科・その他 ( )
5. その他 ( )

事故発生時の状況をお書きください

( )